

原町田中央通り

WS

ニュース vol. 4

原町田中央通りの未来を考えよう

主催：町田市 協力：町田市中心市街地活性化協議会

(第4回ワークショップのテーマ)

原町田中央通りの活用について考える

社会実験の実施に向けたアイデア出し

楽しく回遊できる「町田らしい商店街」の実現に向けて、中心市街地のメインストリートの一つである原町田中央通りを対象に、「通りでこんな風に過ごしたい」、「こんなことができれば良いな」などのアイデアを話し合い、みんなにとって良い通りの未来を描くために、2019年10月28日(月)18:30~20:30 町田まちづくり公社第1・第2会議室にて、第4回ワークショップを開催しました。

第4回ワークショップの概要

1. 今年度ワークショップの到達点の共有と今後の体制づくりについて

コーディネーターの真野先生から、今年度の到達点として、街路整備案(無電柱化にともなうデザイン案/地上機器等の配置案)、通りの活用提案(イメージ/アクティビティ/ルール/活動等)、また今後の体制づくりとして、沿道まちづくり協議会(準備会)、沿道整備・活用検討チームについてお話をいただきました。

2. 社会実験の実施に向けて

他市の事例等を踏まえ、原町田中央通りの活用についてアイデア出しを行いました。その中から、原町田中央通りの具体的な候補地を提示し、社会実験でやりたいコト、できるコトについて意見交換を行いました。

ワークショップの様子



左上：真野先生からワークショップ到達点について説明している様子
右上：小野寺先生から街路デザイン案について説明している様子
左下：社会実験について議論している様子
中央下：他市の事例について意見出し
右下：候補地におけるアイデア・課題出し



次回の予定

第5回ワークショップでは、社会実験の実施結果のご報告や原町田中央通り沿道活用提案の取りまとめ、次年度の取り組みについて意見交換を行う予定です。

第5回：1月28日(火)

※18:30 から町田まちづくり公社地下第1会議室で行う予定です。

次回からのご参加も可能です。下記までお問い合わせください。

<お問い合わせ> 町田市地区街づくり課 042-724-4266 メール：mcity4090@city.machida.tokyo.jp。

意見交換まとめ

○：アイデア ●：課題

1) 社会実験について ○高齢者が利用する施設が多いので、周辺にベンチを置けると良い。 ○セットバック空間の活用が店舗の売り上げにつながれば、店舗側でも協力しやすい。また、お店に事後アンケートをできるとよい。 ○コンビニや飲食店の前だと、椅子と机だけおいても人が座る。また、ゴミ置き場もセットで設置する必要がある。 ●通行人が多いので、落ち着いて休憩できないのではないかな。 ●ベンチ等は、たまり場になってしまう。 ○寝られないタイプのベンチ、もしくはパイプや植栽ボックスの端など、座ることができる仕掛けでも良い。 ●現状、荷捌き車両が停まり、その間を人が縫って歩いている。キッチンカーがたくさん停まれば同じようなことが起きるのではないかな。 ○空き店舗のところは、治安が良くない。セットバック空間にキッチンカーなどを呼んでにぎわいをつくることで改善できると良い。 ○通りの店舗でも物販販売をしている。セットバック部分では、関連する屋台などを出してもらえるとよい。 ○飲食店でなくても、用途に合ったセットバック空間の使い方もある。体験型ワークショップなどお店のアピールに使ってもらう。 ○人工芝を敷けば、子どもの遊び場や休憩スペースになるのでは。 ○ぽっぴ前で週2回、野菜販売をしている。このような販売を道端でやっても良い。 ○隣地のセットバック部分も特に利用されていない場合は、飲食店のオープンカフェとして使用できると賑わいが広がる。 ●民境界にあるバリケードを一時的に撤去する必要がある。 ○看板の設置方法など、どの程度効果があるのか実験してもよい。 ○平日と休日で人の数が全く異なるので、違いを見てみた方がよい。 ●大道芸などもやってほしいが、道路にはみ出す恐れもある。 ○植栽は必要。デザイン面も含め、色々なタイプを試して欲しい。 ○自転車は降りて通行してもらいたいようにしたい。 ○駐輪場への分かり易い誘導サインを設置できないかな。	3) 体制、仕組み、マネジメントなど ●稼げないと出店者もいなくなってしまう。 ●ルールや責任の所在の明確化には組織が必要。 ○社会実験でセットバック空間の活用に協力したお店にお客さんが入り、沿道のにぎわいと店舗のメリットが両立することが示せば、理解や協力を得るきっかけになるのではないかな。 ○電気利用についても今は難しいが、通りの整備のときに電源を確保することもできるのでは。 ●地元の顔役や老舗店が、協力している取り組みであることをきちんと他の地権者や商店街に伝えて、協力者を増やしていく必要がある。横のつながりを活かす必要がある。 ●商店街組織とは別で、通り全体のセットバック部分の管理一元化した連合チームのようなものができるとよい。 ○チャレンジショップ的なお店を出せるコーナーがあって良い。 ○まちづくりに対しての理解を深めるために実験をやり、いい方向に変わっていこうとしている、という実感を持ってもらうことが必要。
2) 無電柱化、舗装の整備など ○無電柱化することは良い。他が変わらなくても無電柱化するだけで通りの印象はガラッと変わる。 ●ベビーカーもスムーズに通れるように、車道とセットバック部分は、段差なしのバリアフリーの仕上げにしてほしい。 ●通りを一体的に整備するには、多くの地権者が市に寄付をしてもらう必要がある。 ○照明や花壇（フラワーポット）なども、今回の社会実験で、試しに設置して、本整備の時の参考にできるとよい。	4) セットバック空間について ○面する店舗との関係も大事だが、街路空間なので、他のお店で買ったモノを近くの椅子と机で楽しむということもできる。 ○デパ地下で、近隣の有名店を集めたイベントを行っている。それを外でできれば、目的を持ってきた人だけでなく通りがかった人も楽しめる。 ●セットバック空間に駐輪場があると、見た目上や通行上もあまり良くない。